

昭和四十九年九月招集

第三回館山市議定会定例会會議錄第四号

館山市議會

目次

日時	場所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	認定第一号ノ認定第七号(質疑)	勳議	決算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託	休会	延会	本日の会議に付した事件
一	一	一	一	一	一	一	二	二	一三	一四	一四	一四	一五

一、昭和四十九年九月二十四日(火曜日)午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十四名

一 番	吉田 勇治郎	三 番	流山 源次郎
四 番	鈴木 稔	五 番	近藤 好雄
六 番	栗原 一雄	七 番	渡辺 昭夫
八 番	石井 武敏	九 番	辻田 実
一 番	山本 昇	一 番	藤田 益治
一 番	五十嵐 昇	一 番	伊賀 多朗
一 番	和田 一郎	一 番	辻井 謹爾
一 番	安西 益男	二 番	君塚 喜三
二 番	鈴木 市蔵	二 番	田村 源治郎
二 番	西村 真次	二 番	安沢 徳順
二 番	飯田 義男	二 番	望月 照正
二 番	田中 禄郎	三 番	遠山 ヨネ子
一、欠席議員 五名			
二 番	林 豊	一 番	渡辺 軍治郎
一 番	島野 茂樹郎	二 番	菊井 敏博
二 番	秋山 六三郎		

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程(第四号)

昭和四十九年九月二十四日午前十時開議

認定第一号 昭和四十八年度館山市一般会計歳入歳出

決算の認定について

認定第二号 昭和四十八年度館山市国民健康保険特別

会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十八年度館山市と畜場特別会計歳

入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十八年度館山市休養施設特別会計

歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十八年度館山市ユースホステル特

別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十八年度館山市学童災害共済事業

特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十八年度館山市水道事業特別会計

収支決算の認定について

開

議 午前十時六分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十一名、これより第

三回市議会定例会第四日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

なお申し上げます。本日は午前中市長が所用のため欠席すると

いう旨の通知がございましたので、御了承願いたいと思います。

議 程 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和四十八年度一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたしま

す。

認定第一号 昭和四十八年度館山市一般会計歳入歳出決算の認

定について

認定第二号 昭和四十八年度館山市国民健康保険特別会計歳入

歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十八年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決

算の認定について

認定第四号 昭和四十八年度館山市休養施設特別会計歳入歳出

決算の認定について

認定第五号 昭和四十八年度館山市ユースホステル特別会計歳

入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十八年度館山市学童災害共済事業特別会計

歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十八年度館山市水道事業特別会計収支決算

の認定について

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました各会計決算の審議方法についておはかりいたします。

まず、認定第一号一般会計決算を歳入歳出一括して審議、次に認定第二号乃至第七号の各特別会計の決算を歳入歳出一括して審議するという議事の進行方法といたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決しまし

た。

これより認定第一号一般会計決算を歳入歳出一括して質疑を行使しないです。

この際申し上げます。発言の折にはページをお示しくださるようお願いいたします。御質疑を願います。

○三番（流山源次郎君） 七一ページのアワビの放流の四十四万七千二百円の件でございますが、これに関連しまして御質問いたしたいと思います。

漁業関係者いたしましたしてはアワビ等の購入費補助金をいたしたいことは感謝しておるわけでございますが、アワビの放流、またはその後においての成果というべきものはどういう結果になっていますか、お聞かせ願いたいと思います。

○水産課長（谷貝茂生君） お答えいたします。アワビの助成に対するその後の成果ということでございますが、畑と違って海の中でございます。とるほうもさまざま全部市場で揚がるということでもございませんので、実際問題として成果を把握するということが非常にむずかしくて、前々からその効果について指摘されておるのでございます。いままでも船形の例をとりますと、放流しましてその後普及所の協力を得まして実際にもぐって、そして大きさ等を調査していただいたこともございますけれども、成長につきましましてはいままでの実際に調査しました結果から見ますと三倍、五倍成育していることは確認しておりますが、ただ場所的に放した場所ではなくて移動している場合もありまして、これは今後まあ何回か追跡調査を実施してその後の状況を把握するということ、この前一回実施しましたときにも大体五センチぐら

いのやつが採捕時に八センチぐらいになっているということは確認されておりまして。いままし調査を重ねまして最後の集計をまとめたいと考えておりますので御了承願いたいと思います。

○三番（流山源次郎君） ことしの四月から五月にかけてあそここのアワビを放流した地点から一直線に北のほうに線を引いた地点、俗に言う野原の海岸、その海岸にアワビでなくてトコブシの異常発生をみた、船形で現在七、八十になる老人の方でもこんなにトコブシが発生したということはないということで、サウリマンの奥さんなり磯遊びをした方が大量にアワビの収獲を得たんでございますが、これは放流したものと関係がほとんどないものかどうか、その点についての調査があったかどうか。また試験場あたりでの調査の結果をお聞きになったことはあるかどうか。お聞きしたいと思います。

○水産課長（谷貝茂生君） トコブシを放流したということはまだ聞いておりません。試験場でもそういった話は伺ってないわけでございます。

○三番（流山源次郎君） 私なんかも現在現役の漁協の役員をやめておりますので漁協の内部の様子が最近ばかりませんが、試験場の話だと放流するアワビに対してはナイロンにくるんだ糸や針金かなんかで印をつけて放流したという説明がございました。実際問題としてことしのある時期に試験場で追跡調査をもぐってしたところが一個ぐらいいしか見つからなかったというような話を聞いておるんですが、結局トコブシだということアワビがそこに移動したのではないかという節も見られるんですが、はっきりしたことはわからないんですが、試験場では私なんかは印をつけて

放流したんだから異常発生したトコブシのアワビというべきものがあれば、放流したものであればそこに何か印があるんかと、それがなければアワビでなくてトコブシの異常発生じゃないかという結論でございますが、ただ私なんかが非常に疑問に思うのは、館山一般にはある地域においてアワビとかサザエとかの養殖に対して禁漁の仕組みがございしますが、湾内の館山、船形地区においてはいままでは放流とかそういうのが必要なかった関係上磯遊びなんかはある程度自由に認めておったんですが、たまたまこの県市からの補助があつてそこに種苗をまいたというものであつて、一般の人たちがせっかくの休みを利用してレジャーを楽しみに海岸に行つて何かほかのものを取つておつたというのが、悪代官が騒ぎがあつてから磯へ行く人は金を払わなければ磯のものをとつてはならぬという結果に結びついて、海岸で放流したものでなくて長い間自分たちで磯ものをとつておつた人たちが、これではそれだけの現象であつたというだけで、磯に行つた仲間は金を払わなければ、鑑札を受けなければとつたものは没収してしまうという事で、磯に遊びに行きたければ金を払えというおかしな現象が起こつてしまつたんですが、こういうものはたとえば県、市が補助を与えてきたというだけのものであつて、一般の磯遊びというものが全面的に禁止されてしまう法律があるのかどうかその点をお聞きしたいと思います。

○水産課長（谷貝茂生君） 一つの営利のために漁具を使って、回復、継続して水産動植物を採取するというのが漁業法の規定でございしますが何も使わず徒手でもって、海岸線を歩きながら手でもつてそこにあるものをたまたまとるといふものは漁業じゃござい

ません。これは自由でございます。

ただ、放流したものがとられるというところに、いわゆる漁協が金をかけて放したやつをとられるというところに問題があるわけでございますので、それも漁業じゃなくても最近はその量のものをとるようになったということで問題があるわけでございす。これらは結局とらないように、入らないようにしていくということになります。漁業権の問題等の関係で共同漁業権ではやれなくなつてまいりますが、そういうことで水産事務所等とも話し合つておりますが、たとえば魚床の設置等についても千葉県で実施したものが神奈川からやつてきて、その付近で磯を荒らしていく。そして行けば逃げてしまふ。船の速力もあるしどうにもならないという問題等も関連的に起きております。一方、だからといって取り締まりをきびしくしてやりますと今度はこちらのあぐり等が神奈川へ行つてその区域に入つてとるといふことで、向こうで取り締まりがきびしくなる、いままでつかまつたこともあります。そういう関連的な問題も起きてくるわけでございますので、結局地元との漁協といたしまして監視の方、あくまでも組合自体でもって監視を強めてもらう以外にいまのところ方法はございませんが、いまのところ絶えず水産事務所等とも取り締まり機関とも話し合いながら今後どうしたらいいかということを検討を進めております。

○三番（流山源次郎君） 話はよくわかりました。私なんか要望することは、現在船形漁協等は現在の地点においてはアワビ等において漁協の生計を立てておるといふことは皆無に近い状態で、また放流した地点において磯をもぐつて商売しているという方は

二、三人でございますが、その方はほとんど地元の漁協に水揚げせずに高級料理店なんか、そういう商人に渡してしまっているという現状で、結局現在放流したから許可をもらうために金を払って許可証を持っている人は、そこで今度組合なり県、市が補助金を出して、そこに育ててきたものをとれたということ、組合通さずにはわづかの補償ということで横流しやっていると、そうすると今まで海岸で自分たちの家族のレジャーの楽しみで、長い間そういう家族の健康のために海岸遊びをしておった方たちが磯に入る事ができない、許可証がなければ入れないという関係で、むしろ非常にマイナスコースを歩いてしまうという結果になりますので、この点は市としても補助金を出す関係上試験場あたりと連絡をとって、また漁協関係とも話し合って、そういう点も加味して、指導によれば磯に行く人はそういったものをとってはいかないという事になればならない、また漁協にとったものを納めるといふなら納めるんですよ。今度は金を払わなければ磯へ入れない、そういうことでは非常に不満があるわけなので、こういう点をよろしく指導していただきたいと思ひます。私なんか漁協の一員ですから総会なりあれば漁協に対しては反省を求める動議も出しますが。そういうわけで市のほうとしても補助金を出す関係上よろしく指導していただきたいと思ひます。

〇二〇番（君塚喜三君） 一点についてのみお尋ねいたします。

三三ページ二款の総務費の一九節負担金補助及び交付金としてお尋ねするわけですが、四十八年度の予算書によりますと二款の総務費の一九節の備考欄に内訳として房総縦断道路負担金四万円が計上されております。ところが決算の該当備考欄にはない、し

かし備考の合計額は支出済み額に合致しておりますので、ということはこのたびの九番議員の通告質問に対する市長の答弁にありましたが全然活用してない、したがって支出ゼロである。不用額二十八万七千三百七十円の中に含まれていると解していると思ひますが、ところが四十七年度もそうであつたわけですが、今後再び活動する見通しがあるのかどうか。その点をお聞きします。

〇秘書課長（太田博雄君） 本件につきましては過日市長よりこの団体の進捗状況について説明がありましたとおりでございます。

現在のところは正直申しまして活動はしていないようでございます。この件につきましては四十七年度、四十八年度、四十九年度と実は負担金を計上してあつたわけでございますが、四十七年度の払い込み期日になりましたも請求がございませんでしたので、私どものほうで、この事務所は県の道路公社でやっておりますので問い合わせたわけでございます。以上のような進捗状況でございますので今回は負担金は徴収しないということで、四十七年度は払わなかったわけでございます。そうしまして四十八年度どうなるかということであつたわけでございますが、これは何と申し上げることでございせんけれども、一応予算化していただきたい、四十九年度も同じような回答がございまして、予算に実は計上してあるわけでございます。

そういうようなわけで、四十七年度、四十八年度は納めてございませぬ。四十九年度も現在のところまだ納めてございませぬのが現況でございます。

〇二〇番（君塚喜三君） 私のお尋ねしてゐるのは今後の見通しです。と申しますのは、先日のご報告の際にも一〇番議員から指摘されておりますが、見通しのつかないものを予算化することは予算編成上好ましくない、地財法違反じゃないかという指摘もあったわけでございますのでお尋ねするわけなんです、全然見通しのつかないものを財源の逼迫して折から計上する必要はないんじゃないかと思ひますので、今後の見通しをお聞きしているわけです。

〇秘書課長（太田博雄君） それとちょっと話は別になります、実は四十七年の六月に国道一二七号バイパスの促進協議会というのできたわけでございます。そこにも負担金を盛ってあるわけでございますが、この会議の際房総縦断道路というものがあるのにどうしてこういう会を設けるのかといういろいろな御意見もあったわけでございますが、いずれにしても一二七号バイパスのほうに重点を置きまして、その後でなければ房総縦断という計画は立てられないのではないかといういろいろのお話もあったわけでございます。

今後の見通しということでございますが、やはり市長が申し上げたとおり見通しはちょっと明るくないじゃないかというふうに私たちは考へております。

〇一八番（安西益男君） 三七ページ一九節の負担金補助金及び交付金というところでございますが、ここに特別養護老人ホーム建設費並びに尿処理場建設費、この二点についての内容とその後経過をお聞かせ願ひたいと思ひます。

それから六三ページ一四節の尿投棄壕借上料四万六千円とい

うことでございますが、これは今年度は土地借上料ということで四万六千円の支出になっているわけでございますけれども、この見通し、毎年払っているようにすけれども、解決方法はないものかどうか。

それから八〇ページの一五節工事請負費境川護岸工事六万二千円はこの場所でしたか、その点お聞かせ願ひたいと思ひます。

〇企画課長（伊藤幸太郎君） 最初の負担金の関係でございますがお答え申し上げます。

まず特別養護老人ホームの関係でございますけれども、四十八年度におきましてこれは主に用地買収の事業でございます。四十八年度におきまして面積にいたしまして約千九百坪、金額にいたしまして四千五百万余の買収を完了してございます。さらに四十九年度におきまして引き続きまして若干追加の買収が出されてございます。

でございますので、四十九年度におきましては今後建物等の事業に入るといふ状況でございます。いま設計中だそうでございます。

次に尿処理場の件でございますが、予算計上はなされておりますが、これは御案内かと思ひますけれども用地買収のめどがいまのところはかばかしくございません。中止の状態になっているわけでございます。でございますので、予算計上されました金額につきましては四十九年度に繰り越しという結果に相なるうかと考へております。

〇衛生課長（館石勘治君） お答えいたします。尿投棄壕の借上げの四万六千円の件でございますが、ただいま壕は真倉と官城

の二カ所にお借りしてあるわけでございます。真倉、宮城ともに現在使用はしてありませんけれども、これはいままで使用しておりまして、もしものことを考えまして現在まだお借りしてある状況でございます。

○土木課長（飯田治男君） 八〇ページの境川の護岸工事の施工個

所でございますが、これは蛭子神社から下流のほうは県の管理になっておりますが、二級河川に指定しております蛭子神社のところから安布里に至ります上流部分の、安布里側の下流のほうから二百四十三メーターを護岸工事を実施したわけでございます。前々から雨が降りますと山本、安布里の構造改善の水が鉄砲水で押し寄せてくる個所で毎回はらんを起しているところでございますので継続で事業を実施しております。

○一八番（安西益男君） 特別養護老人ホームの土地の件でござい

ますけれども、一、二件でしか同意の得られないというようなことを聞いておりますけれども、計画どおりに建物の工事に取りかかるかということで、そういう点がはっきりしてないというふうに聞いておりますけれども、そういう見通しはどうか。そのあと一、二件の買収はできるかどうか。

それからし尿の壕ですね。これは現在当然使っていないわけですが、けれども、毎年土地代金としてお支払いするのかどうか、それやり方法はないのか。

それから境川の護岸のことですけれども、実はあそこに境橋という橋がございしますが、すぐ近くに危険な状態のところがあるわけです。これは県の関係かなと考えておりますけれども、家屋の付近までくずれてある。水が出ますと非常に危険性が強いところ

でございますので、市としても応急的な県へのそういった方法をとっていただけるかどうか、その点。境橋のすぐのところは小笠原の運送店の車庫があるその裏のほうですけれども、現場を見ていただいて危険状態と見えると思いますけれども、その件についての方法について市としてどんなふうなことを考えられるかというところをお聞かせ願いたいと思います。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 用地買収の件でございすけれども

ただいま申し上げましたとおり九割方予定どおり進んでいるわけでございますが、いまだに一、二名の同意が得られないようでございます。まして、引き続きこの交渉を持続している実情でございます。仮にどうしても話し合いがでかぬような場合におきましては若干の計画変更等があるいは考えられる場合もあるかもわからないということのようでございます。

○衛生課長（館石勘治君） 防空壕の借り上げの問題につきまして

は、いま藤原処理場が御案内のとおり少し量が多くされているような現況でございますし、非常に心配されることが多いわけでございますので、こういう問題が解消にめどがつくまでお借りして備えておきたい、こういうふうに考えております。

○土木課長（飯田治男君） 境橋の上流につきましては二級河川で

県の管理になっております。私どものほうも数箇所危険な個所がございすので早急に改修してもらいたいという要望は前々からしてございます。いまお話のありました個所につきましては至急県の土木事務所のほうで現地を見ていただいて復旧方お願いするようになりたいと思います。

○一八番（安西益男君） 養護老人ホームの建物についての工事は

近くやるかどうかということですが、計画どおり進められるかどうか、その点一点だけ。

〇企画課長（伊藤幸太郎君）　ただいま申し上げましたとおり現在設計の段階に入っておりますので、おそらく本年度中に着工の運びに相なるかどうかということでございます。よろしくございますか。

〇九番（辻田　実君）　まず最初に六件ほど一括して質問したいと思えます。

三八ページの第九目八節の報償費でございすけれども、災害等罹災者見舞金二十三万二千円、三十万の当初予算であつたわけでございますけれども、二十三万二千円と支出が出ていますけれどもはどういう状況だったのか、この内容についてお伺いをいたしたいと思ひます。

と同時に、三九ページの急傾斜地危険防止事業負担金でございすけれども、当初予算に対して四十万ほど減になつておりますけれども、四十万の減というのは二割減ですから事業の状況がどうだったのか。負担金の減になつた四十万の状況、二割の額なものですから、そういう点についてどういう状況であつたのか。まず第一点にお伺いしたいと思ひます。

第二点は四一ページの一五目八節の報償費、これは温水プールの事故の問題にからんでの弁護士謝礼二十七万二千円ということとで全額支出されておるわけでございますけれども、この状況は全額出ておるわけでございますからかなり裁判の経過、その他は進んでおるんじゃないかという状況でございますけれども、どの程度の弁護士との交渉、さらには法廷、こういうものがどの程度で

あつたのか。これは全額支出になつておりますのでかなり進んでおるように伺われますけれども、それらの内容についてお伺いをしたいと思ひます。

それから四二ページの一五目九節の普通旅費三十万九千円という支出になつておりますけれども、当初予算で四十万一千八百円というところでございますので、かなりの減額になつております。旅費等の節約は非常にけつこうなことなのでございますけれども、見積もり等について三割以上の食い違いが出ておりますのでこちらへの状況について、こちらの活動について支障がなかったかどうか危惧されますのでそこらへんについてお話を伺いたいわけでございます。

それから四四ページ三項一目の一三節委託料でございす。住民基本カードパンチ一人二十円ということでもって当初予算に計上されておりましたけれども、かなりの不用額が出ております。どういふ形で、こまかい計数が出ておつたわけでございますけれども、これらの状況はどうであつたのか、この点についてお伺いをしたいと思ひます。

六〇ページ三目八節報償費三千円、公害を語る会の支出でもって、予算編成でもって公害を語る会の支出については非常に少ないんじゃないかということで論議を起したところでございますので、この支出は三千円でどの程度の公害を語る会が開催できたのか。講師の内容、さらには参加者の状況等をかみ合わせてこの公害を語る会の状況についてひとつどの程度の状況であつたのか、私も参加したかどうか覚えておりませんので、この点についてどういふ状況であつたのかどうか。これらについて合わせてお伺い

をしたいと思っています。

次に六二ページ二目の一四節使用料及び賃借料でございますけれども、自動車借上料が八百三十四万五千三百円ということが出ておるわけでございますけれども、これは高圧洗浄車のリースの借上金であるわけでございますけれども、当初予算でございますすると七百六十万ということで約ここに六十万の超過になっておるわけでございますけれども、この借上料の超過が六十万当初予算からふえておるわけでございますけれども、若干の端数は別でだけれど、全体的な決算そのものは予算の範囲内でもって支出されておるのが全体的に見受けられるんですけども、この項については六十万の支出オーバーで、この節内の支出のために実際不用額としては八万円ということでもって済んでおりますけれども、この点についてはどういう経過なのか。また高圧洗浄車の使用状況について合わせて説明願えればというふうに考えております。

八七ページから九〇ページに至るところの小中学校費一節、一八節の需用費並びに備品購入費がそろってかなりの高額な残を出しているわけでございます。昨年資材不足と紙の値上がりがあり、常なものをきましておったわけでございまして、これらについてはかなり予算減になるんじゃないか。予算が足りないんじゃないかという気がしたわけでございますけれども、これは儉約し過ぎなのか。実際当初見込んだところの需用費、購入費に対しての物品内容の充足率、そういうものはどうだったのか。物が高くなっただめに買い控え等によってかえって残を出してしまったということなのか。当初の予定に対して全体的に小中学校ともに一定の比率をもって残を残しておりますので、その点についてお答え願

えたらと思っています。

以上六点についてお聞きしたいと思っています。

○交通防犯課長（山口 一君） 災害罹災者見舞金の関係について御説明申し上げます。

内訳といたしましては、負傷者三十五名、死亡者九名、火災関係九件、それから昨年十月二十八日の集中豪雨によります床上浸水十五件、その他で合計六十八件で二十三万二千円の見舞金の支出でございます。

それから三九ページの急傾斜地危険防止事業負担金でございますが、御案内のとおり郡古山の急傾斜地の崩壊防止工事につきまして、現在県営工事によりまして防止工事が行なわれておりますが当初の予定といたしまして毎年二千万程度の工事費によって四カ年計画で行なうということとございまして、四十八年度は最初の第一年度でございまして二千万程度の工事量ということでございましたので、規定によりましてその一割の額二百萬の額を計上したわけでございます。たまたま設計等の関係で工事費が千六百萬ということになりましたので、その一割の百六十萬の支出で四十萬の残ということになったわけでございます。

○庶務課長（小倉澄男君） 四一ページの一五目諸費の温水プール訴訟のその後の経過について御説明申し上げます。

この報償費でございますが、二十七万二千円のうち二十四万円が訴訟関係の弁護士の報償費でございますけれども、三万二千円は秘書課のほうの法律相談の報償費でございますので。

それから経過でございますが、四十七年三月の事故発生以来四十七年の六月二十七日が第一回の口頭弁論が開始されました七回

の口頭弁論がございました。四十八年の八月十七日が七回目でございます。その後同じく七回で十六人のそれぞれの原告側、被告側の提示いたしました証人の喚問がなされまして、それが終わりましたのが四十九年の六月十八日の法廷でございます。その後七月十九日に裁判官のほうからある程度両者の間で具体的なことを話し合っているかという和解といいますが、そういうような裁判官からの話がございまして、その後の結果がきたる十月十一日に裁判が、また法廷が招集されてございます。

以上が概略でございます。

○税務課長（越路良夫君） 四二ページの旅費についてお答え申し上げます。

不用額十萬七千円余でございますが、このうち当初計画しました固定資産の審査委員会の委員、なお評価補助員に関連する旅費が八万円、これは当初計画した時点でちょうど委員さん等の都合がございましてこれが実施できなかったというものでございまして、一般的な調査旅費、評価関係の旅費、それについては支障なく実施が終ったわけでございます。

○市民課長（横溝 功君） 四四ページの委託料についてお答えいたします。

当初おっしゃるように二十円であったわけでございますけれども、その後業者が向こうで見積もりしたところ、こちらの見込みよりも安くでき上がったわけでございます。

以上でございます。

○衛生課長（館石勘治君） 六〇ページの報償費の三千円の件でございますが、これは公害の講師といたしまして前館山保健所長さ

んを迎えまして、それから講習を受ける対象者は婦人会の方々約三十名程度を記憶しておりますが。

内容といたしましては公害に関するいろいろな話し申し上げたのでございますが、ことに保健所の方々のお話の内容は食品公害について係官がおい出になりましたして詳しく御説明を申し上げます。

次に六二ページの自動車借上料の内容でございますが、この内容は側溝清掃車が借上料として三百万、それからダンプ、ブル、そういったものの借上料が五百三十四万五千三百円とこのように計上されておりまして、合計八百三十四万五千三百円に相なったわけでございます。

それから側溝清掃車と対応いたしまして側溝清掃班をつくりましてこれに従事しておるわけでございますが、この清掃班というのは側溝の、つまり町内と一緒に作業をやっておりますので、町内で上げたどろをいま一つのダンプで運んでおる。ことに側溝清掃車は有蓋の側溝を主にしております。ほほ市内の有蓋の側溝はひとつとおり完了したというふうに現在考えておるわけでございます。

なお、側溝の中にはいろいろ構造上いろいろな問題等もあるようでございますので、なかなか思うような速度で進んでもらえないということを作業員のほうから言っておる現状でございます。

当初予算から六十万予算が多くなっているのではないかとといううなお話でございますが、ダンプ、ブルを使います際に当市は処理場のごみを埋め立て地に運んでおりましたのでごみの量が多くなってしまったわけでございますので、どうしてもダンプを多く

使わなきゃやっていけなかった。こういう状況になってしまいましたので、こういうふうに見込みよりもオーバーしたわけでございます。

〇教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 八七ページから九〇ページに至ります小中学校の需用費と備品購入費の關係でございませう。

八七ページにおきます需用費の残六十七万三千円。この主体をなしますのは光熱水費、印刷製本費でございませうが、光熱水費におきまして四十万二千円、印刷製本費におきまして十二万、こういった残が生じております。光熱水費は四十八年度放送センターが本格化するにあたりましての電気料、それから館山小学校の改築、こういったものを予想しまして四十七年度の実績の一・二倍を一応予算として計上させていただいたわけでございませう。しかし現実にはそこまで使用しなかったということが起因するものであります。それから印刷製本費でございませうが、これは外注等相当高くなりますものを庁内印刷のやりくりがスムーズにできました關係で処置いたしました。そういった關係から不用額を生じたわけでございませう。

それから八八ページの備品購入費の予算残でございませうが、これは内容的には各学校に配当します予算、これは校用器具費でございませう。これにおきまして二十四万ばかりの残が生じておりますけれども、一枚にしてみますと二万見当でございませう。私ども配当しましたものはつとめて節約しながらも必要なものに事欠く事なきよう指導しておりますけれども、その程度の予算が生じたこういった結果になってしまったわけでございませう。その他器具費關係、これは放送機、トリーシャファックスを購入したわけでござ

いませうが、その契約におきます時点で生じた残でございませう。

それから同じく八八ページの一一節需用費におきます六十四万六千円の不用額でございませうが、この不用額の主体は児童学習用器具材料費、これはいわゆる無償交付の材料費でございませうが、これにおきまして契約時点で生じた五十七万三千円の予算残が主たるものでございませう。

それから九〇ページの一一節需用費におきまして七十万五千円の予算残が生じております。これは光熱水費におきまして二十二万六千円、修繕費におきまして四十万、こういったものが主たるものでございませう。光熱水費は先ほどの小学校の場合と同じような趣旨による予算残でございませう。修繕費の四十万、これは予算編成時点におきまして一中の雨漏り、それから二中の雨漏り、こういったものを想定いたしまして予算を組んだわけでございませうが、四十八年度の年度当初に左官を専門職としております職員を一名採用いたしました。それらの關係から予算執行しなくともこの職員の処置でできたというふうなことでございませう。

それから九〇ページの一八節の備品購入費の二十九万八千円の不用額でございませうが、これは各学校へ配当いたします器具費の中十五万の不用額が生じております。一枚にしますと二万見当のものでございませうけれども、これも小学校の場合と同様の指導はしておりますけれども、このような不用額が生じております。それから機械器具費、これにおきまして十五万の不用額が生じておりますが、これは四十八年度購入いたしました一中、西岬の放送機、トリーシャファックス、こういったものの契約時点におきます

予夢残でございます。

〇九番（辻田 実君） 二点について再質問いたしたいと思ひます。

四一ページの裁判の状況でございますけれども、十月十一日にまた開かれて調停を前提にしたところのいゝるんな裁判がなされるということでございますけれども、この見通しというのはいまが相当長びきそうなのか、それとも今年度近いうちにある程度解決の方向にきておるのか、最終段階にきておるのかどうなのか。さらに来年度へという形で移行せざるを得ないのか。裁判のことでそれからわからないと思ひますけれども、しかし相当数にのぼるところの口頭弁論、証人尋問が終つておりますので、ある程度弁護士からの話も聞いておると思ひますので、そこらへんについての今後の結末時点がどこらへんにきておるのか、まず第一点お聞きしたいわけでございます。

それから六二ページの借上料の問題でございますが、この内容がごみの量が多くなつて埋立地に運ぶダンブ並びにブルの使用回数が増大によるところの六十万前後の増加ということでございますが、このブル並びにダンブの契約状況、どういう形で行なわれておるのか。こういう大幅なアップが出たんですけれども、回数とかそういう形なのか。委託内容、委託状況、その実態についてもう少し説明願ひたい。私は当初予算の見込みより量が相当多くなつたんだと考へられます、これだけの額のアップですから。そこらの見込み違いはどの程度あったのか。ごみそのものが出たのか、焼却能力が見込んだよりも出たのか、そういった原因が出てゐるんじゃないか。相当高額な増加ですからそこらへんの原因を明確にしたいださいたいと思ひます。

〇庶務課長（小倉澄男君） 今後の見通しについてでございますが、

裁判につきまして初めてでございますのはつきりしたことはまだ申し上げられませんが、一応両者の話し合いがある程度順調に進めばこの十月十一日に話し合いを決定づけたいという裁判官の意向はもつておるようでございます。しかしながら弁護士等の意見を聞きましてそういうことは不可能であつて今後相当の話し合いが行なわれるんじゃないかということで、最終的には今年度末までには決定するんじゃないかというふうな見通しだけでございます。

〇衛生課長（館石勘治君） 六十万の件につきましては四十九年三月補正でお願いしたわけでございますけれども、ごみの量は確かに多くなつてまいりましたし、それから四十九年の四月からやり方をおかまして全部向こうのほうでもつて処理するということな形をとりました関係で、あそこにごみを全部きれいに片づけてしまつたわけでございますので、いままでは年度年度に繰り越すというふうな状況もあつたんですが、四十八年度の最後は

いままでの方法とかえた関係で全部きれいにさらえるということで三月議会で補正をお願いしたわけでございます。

〇二〇番（君塚喜三君） 三七ページの二款総務費の企画費の一九節備考欄のし尿処理場建設費二百二十五万三千円については一番議員から質問があつたわけでございますが、どうも合点がいきませんので関連としてお尋ねいたすわけでございますが、四十八年度の当初予算では九千二百六十二万六千円が計上されております。ところが決算におけるところの予算現額ではそれより五百九十一万七千円が増額されております。ということは特別養老老人

ホーム建設費とともにこのし尿処理場建設費二百二十五万三千円というのは補正によるものと思ひます。この点確認してありませんし、私の記憶にもありませんので、まことに申し訳ありませんがともあれ二百二十五万三千円というものが支出されておるけれども、ということとは不用額に載っておりませんので支出されていゝると思ひますが、これはどういふことだつたかちよと私疑念に思つたわけで再度お尋ねするわけでござひます。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 特老とし尿関係につきましては、去る十二月の補正で追加をお願いしてござひます。そういうわけでござひます。

○二〇番（君塚喜三君） ところで補正を行なつてし尿処理場の建設といふのはどこに建設されるかといふのは聞いておりませんが、どういふ費用なんですか。

○企画課長（伊藤幸太郎君） これは主に用地買収の事業計画に基づきます負担金予定額でござひます。

○二〇番（君塚喜三君） しかし、ここにあるのは支出してあるんでしやう。決算されておるんですから。もしそれが要らないといふことになれば不用額として当然載つてこなければならぬ。そうでなければこの額は合ひませぬ。この点どうも数字の魔術がはつきりわかりませんが教えていただきたい。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 先ほど申し上げましたように市の予算におきましては十二月の補正で追加をお願い申し上げ一旦これは負担金として広域圏のほうに支出済みのものでござひます。でありますので広域圏といひまして事業は実施されなひ以上これは広域圏のほうで余るわけです。広域圏のほうで不用額が生じる

わけでござひます。でござひますので先ほど申し上げましたように広域圏決算の中で四十九年度へ繰り越しという形に相なるといふ結果が生じたわけでござひます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ござひませんか。―御質疑なしと認めます。

おはかりいたします。認定第一号の質疑はこれにて打ち切りたと思ひます。これに御異議ござひませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて決しました。

続いて認定第二号乃至第七号の各特別会計決算を歳入歳出一括して質疑を行なひます。

暫時休憩いたします。

午前十一時 十一分 休憩

午前十一時三十五分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑を求めます。御質疑ござひませんか。

勸 議

○二四番（西村真次君） この際勸議を提出いたします。

ただいま議題となつております認定第一号乃至第七号に対する質疑につきましてはなお発言もあるうかと存じますが、ひとまずこのへんで質疑を打ち切り、さらに詳細に内容を検討するため、決算審査特別委員会を設置してこれに一括付託し、慎重に審査をお願いしたいと思ひます。

なお、その委員の数は十名とし、選任の方法は議長、監査委員を除いて選考し、議長の指名によりたいと思います。

満場の御賛同をたまわりたいと存じます。(拍手)

決算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託

○議長(吉田勇治郎君) ただいまの二四番議員君の動議を議題といたします。

本動議は、認定第一号乃至第七号についての質疑を打ち切り、さらに慎重審議の必要上、決算審査特別委員会を設置し、これに一括付託する。

その委員の数は十名、選任の方法は議長及び監査委員を除いて選考し、議長の指名によるということでございます。

おはかりいたします。本動議のとおり決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって決しました。

これより決算審査特別委員会の委員を指名いたします。

三番議員 流山源次郎君 五番議員 近藤 好雄君

六番議員 栗原 一雄君 七番議員 渡辺 昭夫君

八番議員 石井 武敏君 九番議員 辻田 実君

一二番議員 藤田 益治君 一三番議員 五十嵐 昇君

一六番議員 辻井 謹爾君 二四番議員 西村 真次君

以上十名、決算審査特別委員会の委員に指名いたします。
これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって決しました。

重ねておはかりいたします。ただいま決定されました決算審査特別委員会に認定第一号乃至認定第七号昭和四十八年度一般会計及び特別会計決算を一括して付議し、後日の本会議までに審査を了し、その経過並びに結果について報告を求めるようにいたします。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって決しました。

ただいま選任されました決算委員の方々は、のちほどの議場において正副委員長互選を行いますので御了承願います。

休 会

○議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。

明九月二十五日から二十九日までの五日間、委員会審査のため休会いたします。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって九月二十五日から二十九日までの五日間休会することに決しました。

延 会

○議長(吉田勇治郎君) 重ねておはかりいたします。

本日の会議はこれにて延会いたします。これに御異

議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、九月三十日午前十時開会といたします。その議事は認定第一号乃至第七号昭和四十八年度各会計決算にかかわる決算審査特別委員会委員長の審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、認定第一号乃至認定第七号

一、決算審査特別委員会の設置

一、休会

